

『百日咳』2回シリーズその①

大人の患者数が増えています！



百日咳の患者状況について

咳が長く続き、重症化することもある子供の感染症（感染力がとても強く（麻しんと同程度）が、ワクチン接種歴のある青年・成人の間でも流行が散発的にみられ、患者数は増加傾向にあります。

<参考>宮城県保健環境センター（宮城県結核・感染症情報センター）

ホームページ <http://www.pref.miyagi.jp/site/hokans/kansen-center.html>

	石巻圏内	宮城県内（全年齢層）
2018年	2名	34名
2019年（6月3日時点）	3名	45名

原因は？

咳を主とした急性気道感染症で、百日咳菌という特殊な細菌が原因です。一度感染したら、次はかからない終生免疫の感染症ではないため、風邪のように何度でも百日咳にかかる可能性があります。

どのように感染しますか？

・咳で人から人へ感染（飛沫感染）・汚染されて間もない物品への接触

・成人が新生児の感染源となる。

潜伏期間は、5日から21日（多くは7日から10日）です。

・周囲に感染させうる期間、咳嗽開始1週間から3週間後

主な症状は？

咳などの症状が長引くのが特徴です。

1) 潜伏期のあと、約2週間から3週間、軽い風邪症状が強くなるカタル期

2) 次に、約2週間から3週間には、立て続けに激しく咳き込み、最後にひゅーと息を吸い込む様な咳発作を伴います。なかには、ひどい咳のため、顔が真っ赤になったり、嘔吐を伴い無呼吸発作をひきおこすことがあります。

3) 徐々に回復していきませんが、数ヶ月にわたって、症状が長引くことがあります。

*百日咳にかかった患者が、ワクチン未接種の同居家族に感染させる可能性は80%から90%と高いです。

予防法は？

乳幼児期に、三種混合ワクチンまたは、四種混合ワクチン（4回接種）を接種しますが、4年から12年で免疫力が低下するため、小・中学校を含めた学童や成人は、ワクチンによる免疫効果は期待できません。基本的な手洗い、うがい、咳エチケットでを心掛けましょう。

成人用三種混合ワクチンまたは三種混合ワクチンを希望する際は、取り扱いのある医療機関で接種するしかありません。

受診・医療機関の届出について

・咳が続く場合は、安静にして、早めに医療機関を受診しましょう。

・医療機関の方へ：2018年から成人を含む届出が義務付けられました。

<宮城県ホームページ> <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/situkan/kansenshokijun.html>

<NIID 国立感染症研究所>

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/encyclopedia/392-encyclopedia/477-pertussis.html>

<厚生労働省・百日咳>

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou11/01-05-23.html>